

令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会(山形) アピール

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、今年で第34回となりました。開催県の山形県建築士会のみなさまと、女性委員会を立ち上げられました初代の女性委員長はじめ歴代女性委員長、連合会会長および女性委員会担当副会長、各都道府県建築士会会長と女性委員会(部会)、WEB配信にご協力いただきました東北ブロック青年委員の方々、そして事務局など多くの方々のご協力とご理解の下に継続出来たことに深く感謝し御礼申し上げます。

同協議会では、平成23年の東日本大震災以降、全国各地で発生しました災害状況や復興支援活動について毎回ご報告をいただいています。今年は、昨年の山形県と石川県の被災地報告と、14年前の東日本大震災後の福島県の活動報告、30年前の阪神淡路大震災後の兵庫県より被災地報告をしていただきました。私たちはこれからも災害報告を継続して情報を共有し、災害の多い日本において建築士としてどのような活動が必要か、共に模索してまいりたいと考えます。

今回のメインテーマは、「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」とし、～雪・山・川がおりなす食文化と共に～をサブテーマといたしました。私たち建築士は、環境、社会、経済の観点で持続可能な未来の実現のために改めて木の建築について学び、未来の子ども達により良い環境をつなげていきたいと思えます。

一日目の全体会では、基調講演として瀬野和弘氏、鍋野友哉氏より「木造建築の可能性」と題して、お話しいただきました。二日目の分科会では、“自分ごととして「避難所運営」を考える。～避難所運営ゲーム(HUG)実施を通じて”、“古民家復権作戦”、“ちびっこ『ちょこっとプランニング』”、“「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」について”、“建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える／林業木材産業との協働の中で”、“建築士としての「防災」を今、考える”、“伝統と未来をつなぐ古民家再生”、の7つのテーマのもとに活動報告並びに意見交換をいたしました。

それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、生活者としての視点から住まいづくりや、地域性を活かしたまちづくりを考え、生活に潤いを与える環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として持続可能な未来の実現のために、豊かなまちづくり、空間づくりに取り組んでまいります。
3. 私たちは、災害報告等を通し、建築士として、被災者を思う心を忘れずに、継続して復興支援のあり方を模索し、災害時における支援活動に取り組んでまいります。
4. 私たちは、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、安心安全な社会の実現のために日々研鑽してまいります。